令和6年9月13日

保護者様

北九州市立貫小学校
校長　大谷　久美

令和６年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

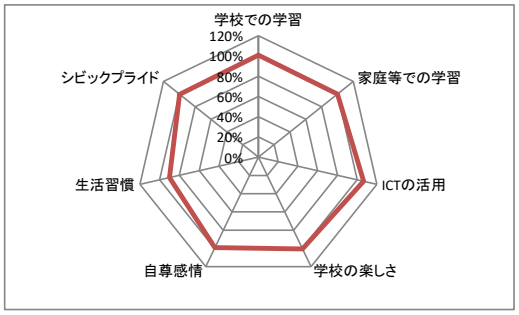
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討できるかどうかみる問題や、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題はよくできている。 ○文の主語と述語の関係を正しくとらえる問題、文の中で正しく漢字を使うことができるかどうかをみる問題に
算数	○問題場面の数量関係を捉え、正しく式に表す問題はよくできている。 ○球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉えて立方体の体積を求める問題、折れ線グラフの数値を読み取り、条件に当てはまる言葉と数値を使って答える問題、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるか

２．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合が、昨年に続き全国平均、本市平均を上回っている。高い規範意識と人権感覚を養うことができている。 **○「学校の授業時間以外に、１日当たり平日は１時間以上、土曜日や日曜日など休日に2時間以上勉強する」と答えた児童の割合が、昨年に続き全国平均を下回っている。** **○「5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した」と答えた児童の割合が、全国平均、本市平均を上回ってい**

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○国語科の漢字、算数科の計算を答える等の基礎的な学習は、前学年までの復習を適宜行う。ドリルアプリ等を積極的に活用する。
○本年度の研究テーマの１つでもある「授業におけるICTの効果的な利活用」を今後も一層推進する。
○話し合う活動を通して、自分の考えをもち、「比べ合う」「深める」場面をさらに増やす。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○学校で作成した家庭学習スタンダードを積極的に活用し、児童の自主学習の習慣が定着するようにする。学校・学年通信やホームページで、保護者に家庭学習の啓発を行い、協力を得るようにする。